

第5回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和4年8月17日（水） 14時00分

2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301.302 会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 垣内 敬造
委 員 山本 恭子
委 員 鈴木 友美

4 会議に出席した職員

学校教育部長 西羅 忠和
こども未来部長 稲山 悟
社会教育部長 小林 康弘
学校教育次長 岸田 幸雄
こども未来次長兼保育教育課長 西嶋 睦美
教育総務課長 中野 悟
学校教育課長 浅田 智広
学 事 課 長 山本 毅
教育研究所長 大野 圭一
東部学校給食センター所長 石田 哲也
西部学校給食センター所長 齋藤 昭
子育て企画課長 竹見 朋子
社会教育課長 谷掛 昭二
文化財課長 村上 由樹
中央図書館長 小島 理三
田園交響ホール館長 酒井 直隆
総 務 課 長 河南 剛
中央公民館長 大路 和浩
保育教育課係長 糸川 尚子
教育総務課係長 田中 真紀子

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時00分

7 会 期

（自）令和4年8月17日

（至）令和4年8月17日 1日間

8 会議録署名委員名簿

西田 正志 委員

9 閉 会

16時26分

丹後教育長 全委員 丹後教育長	<p>日程第 1、令和 4 年度第 4 回会議録の報告、承認について意見等はないか。異議なし。</p> <p>全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。</p>
丹後教育長	<p>日程第 2、会議録署名委員は 1 番西田委員とする。</p>
丹後教育長	<p>日程第 3、会期は令和 4 年 8 月 17 日、本日 1 日間とする。</p>
丹後教育長	<p>議案に入る前に、前回 7 月 27 日に開催した第 4 回定例教育委員会において、教育委員からのご質問に、「改めて回答する」としていた 1 件について回答する。</p> <p>先ほど承認いただいた会議録の 4 頁をお開きいただきたい。報告 5 号「令和 4 年度 7 月小・中・特別支援学校定例校長会について」のなか「令和 4 年度丹波篠山市生活習慣状況調査の結果について」、西田委員からのご質問、「いじめを見たり聞いたりして、心を痛めることがありますか」の結果で、複数年度にまたがる同じ学年の比較」について、教育研究所から回答する。</p>
大野所長	<p>前回のご質問は、今の 5 年生の「いじめを見たり聞いたりして心を痛めることがある」の割合が、今の 6 年生や中学 1 年生が 5 年生の時と比べると 10% くらい低いが、これはこの学年集団の特徴かということであった。前回報告で、今年度の 5 年生が 74.5% だったのに対して、昨年度の 5 年生は 84.3%、一昨年度の 5 年生は 86.2% であった。</p> <p>ご質問を受けて確認すると、3 年前の 5 年生は 76.5% と今年度とほぼ同様であった。4 年前の 5 年生は 63%、5 年前の 5 年生は 55.8% だったことから、学年集団によってばらつきはあるが、ここ 6 年の経過を見ると、今年度の 5 年生が特に低いというより、昨年度、一昨年度の 5 年生が高い水準であったと言えると思う。</p> <p>どの学年集団を見ても、年齢が上がるにつれて肯定的な割合が増える傾向がある。また、過去のデータを見ると、以前は肯定率が 9 割を超える学年集団は見られなかったが、今年度は中学校の 3 学年ともが 9 割を超えている。保護者・地域の関心の高まりも受け、学校での指導がより一層充実し、児童生徒の意識が高まっていると考えている。</p>
丹後教育長	<p>日程第 4、承認事項に移る。承認第 6 号「令和 4 年度補正予算（7 号補正）案の市長への提案について」教育総務課説明を求める。</p>
中野課長	<p>《議案書に基づき説明》</p>
丹後教育長	<p>承認第 6 号「令和 4 年度補正予算（7 号補正）案の市長への提案について」</p>

<p>全委員 丹後教育長</p>	<p>異議はないか。 異議なし。 全員賛成で、承認第6号の「令和4年度補正予算（7号補正）案の市長への提案について」を承認する。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>日程第5に移る。議案第8号の「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて」教育総務課説明を求める。</p>
<p>中野課長 齋藤所長</p>	<p>《議案書に基づき説明》 《議案書に基づき説明》</p>
<p>垣内委員</p>	<p>学校給食調理費の食材費高騰による賄材料費の増額は仕方のないことだと思う。現状では給食費の値上げは難しいとの説明であったが、今後の給食費の値上げについて計画はあるのか。</p>
<p>齋藤所長</p>	<p>今回の増額は、高騰分を補正予算要求をしている。今後については、物価高騰が落ち着くのか続くのか見極めが重要である。給食費は、社会情勢を見ながら、また市として子育てしやすいまちを目指すなかで政策的な面も考えながら、現時点では、来年度に向けて検討していく。</p>
<p>西田委員 齋藤所長 垣内委員 齋藤所長 西田委員</p>	<p>今回の増額要求は、令和4年度下半期給食分が対象なのか。 年間の予定総数をみて不足する額として積算している。 1食15円だと、1家庭1ヵ月当たりいくらの増額となるのか。 1ヵ月20食として300円の増額である。 政策的な面もあるので市長部局と十分協議をしてもらったらいと思うが、食材費は保護者が負担するというのが大原則である。今、1食280円に対して15円不足するという現実をみると、ある程度方向性は決めるべきではないか。コロナによる物価高騰はそう簡単に収まるとは思えない。また、前回値上げをして今の給食費を設定してから随分年月も経過する。だから値上げをするべきというものではないが、そろそろ研究していく時期であると思う。</p>
<p>西羅部長</p>	<p>今発言いただいたことについては、当然今回の議論の中でも出てきた。今回は緊急的対応の措置として増額要求をしている。財源についても新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使い、家庭に負担をかけない調整をしている。来年度以降のことについては、本来食材費は保護者負担であるので家庭に請求を求めるものであるが、一方で今市の施策では、経済対策も含めて家庭支援の活動もしている。また、ある程度の期間が必要かもしれないが、現在の食材高騰が落ち着けば、今の給食費で賄えるという考えもある。新年度予算要求に向けて再度協議をしていく。</p>
<p>西田委員</p>	<p>学校教育充実事業のALT2名、医療的ケア看護職員1名の未配置による減額補正について、減額の理由は何か。また、委託料のカバーリング事業とはどういうものか。</p>

浅田課長	<p>ALT2名の未配置は、1名は急に本人都合で帰国、もう1名は急遽取りやめになった。その2名がいれば8名全員が任用できたわけであるが、結果6名となった。ALT2名が不足することの対応として、委託になるが1名を派遣してもらおうのがカバーリング事業である。結局7名体制である。</p> <p>医療的ケア看護職員については、看護師は本来2名配置であるが、1名しか採用できていない。委託で看護師に週2回の派遣により、未配置対応をしている。</p>
西田委員 浅田課長	<p>そうなると、今年度、看護師を直接任用せずカバーリングで対応するのか。直接任用をしたいという思いはあり、公募は継続しているが、申込みがあってもすぐに辞退されたりなかなか難しい状況である。会計年度任用職員として任用できる状況が整えばできるだけ速やかに任用したい。</p>
西田委員	<p>教育研究所事業費で市指定研究事業の3校で15万円減額について経緯等の説明を求める。</p>
大野所長	<p>道徳の県指定を受けた学校で丹南中学校、大山小学校の2校がある。この2校は県から研究事業が出るので市費分を減額要求した。古市小学校は、安全安心の事業で指定を受けているので、市指定研究は受けていない。当初は全学校が指定研究を受けられるように20校分を要求していたが、現状に合わせて減額補正した。</p>
垣内委員	<p>放課後児童対策事業、児童福祉一般事務費、私立認定こども園運営事業償還金補助及び交付金について、詳しい説明を求める。</p>
竹見課長	<p>放課後児童対策事業については、児童クラブ運営のため子育て支援交付金が国県から概算で交付される。3月末に精算をする仕組みであるが、精算の結果返還金が生じたので、今の時期に国に返還するという流れである。</p>
垣内委員	<p>差額が大きいのが、補正でこれだけの額を要求しないといけないのか。計画が立てにくいのかと想像はするが、計画どおりにいかなかったのか。</p>
竹見課長	<p>児童クラブの場合は数も多いことや、長期休業期間中のアルバイトが実際は予定どおり任用できなかつたり、計画どおりにいかなかった。確定しないうちで令和3年度の3月補正で減額することができず、最終の精算で対応とするものである。</p>
垣内委員	<p>放課後児童対策事業の50万8千円というより、私立認定こども園運営事業の償還金補助及び交付金735万3千円、この返還金はなかなか目立つかどうか。これだけの差額が出ないように計画することはできないのか。</p>
丹後教育長	<p>この件の回答は、後ほどとする。</p> <p>他の質疑をお願いします。</p>
山本委員	<p>文化施設管理費の篠山城大書院防犯設備修繕工事について詳しい説明を求める。</p>
村上課長	<p>大書院の防犯設備は、二の丸庭園において5月22日落雷があり、設備が損傷した。赤外線を通して夜間侵入者を防ぐもので、末端の設備はかなりの数があり調査に時間を要した。この設備は保険対象であるので予算確定後早急に対応する。</p>

山本委員	保険対象ということだが、保険対象でなければ修繕料はもっと高くなるのか。
村上課長	この要求額は、補償額を差し引いたものではない。補償額が確定するのは、修繕後1年ぐらい後だと聞いている。修繕料の全額が補償されるのではなく、7割程度と考えられる。
垣内委員	学校教育充実事業 ALT について、1名自己都合により帰国したとのことであるが、その ALT の給料を払った上にカバーリング事業の委託料を支払ったということか。
浅田課長	学校教育充実事業の報酬欄のとおり ALT 報酬を減額し、代わりに委託料でカバーリング実施委託料を増額している。
丹後教育長	議案第8号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて」の審議は一旦ここまでとし、後ほど改めて審議を行う。 時間の都合上、先に報告事項に入る。
丹後教育長	日程第6、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告3「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課報告を求める。
浅田課長	《議案書に基づき報告》
山本委員	小学校児童の対教師暴力、生徒間暴力が気になる。児童にも理由があって行為をしているのだと思うが、今回は怪我がなくてよかったと思う。大きな怪我や事故があったときに、子どもも犯罪者になってしまうこともある。大変だと思うが、このような事態にならないように事前の取組もお願いしたい。
浅田課長	学校にもそのように伝える。
丹後教育長	報告4「いじめ問題に係るアンケート集計結果(1学期)について」学校教育課報告を求める。
浅田課長	《議案書に基づき報告》

垣内委員	<p>アンケートはとても有効でいじめ発見のきっかけになると思うので、引き続きお願いしたい。</p> <p>12 頁、4 「いじめの問題にあったとき、相談する対象について」が、教員や保護者、友だちが出てくるのはわかるが、スクールカウンセラーや学校外の相談機関に相談するというのが少ないのが印象的である。これをもっとあげてを学校でも検討いただきたい。</p>
浅田課長 山本委員	<p>今後検討していく。</p> <p>いじめについては、アンケートも含めて、「相談をする」という土壌ができていたと感じた。10 頁「冷やかし・からかい・悪口・嫌なことを言われている」で、中3が100%となっているが、これはどういうことなのか。</p>
	<p>「パソコンや携帯電話等に嫌なことを書かれる」が、これが逆に 0%というのがすごいことだと思ったが、問題行動等の報告結果も見て、実際はどうかかなと思った。</p> <p>「5 いじめを見たときの対応について」が、「先生に伝える」というのが1 位になっており、小学生は「注意する」というのがとても高い率なので、これは自分たちでより良くしていこうという雰囲気が育っていると思った。中1～3年は、「友だちに相談をする」というのが高くなっているため、発達段階に応じてそのように変化してきて良い傾向だと思った。</p> <p>いじめアンケート結果が詳細に分析してあり、納得する部分が多かったが、その中に「暴力を伴ういじめの場合、特定の児童生徒が関わることが多いことから、暴力を振るう傾向がある児童生徒を休み時間や放課後など注意してみる体制を構築することで早期発見に努める」とあるが、これは保護者にとっては有難いが、教職員の負担もあり、限界もあると思う。特定の児童は何か理由があると思うので、なぜそのような傾向がその子にあるのか、どうしたらいじめにつながらないのかを今後も協議していただきたい。</p>
浅田課長	<p>まず、10 頁表(3)ア～ケは、分母となる数字が、(1)、(2)で「はい」と答えたものについての数字となる。そうなるかどうかということになると、中3の「冷やかし・からかい…」100%というのは、中3で「いじめられたことがある」で「はい」と答えた生徒1名である。その生徒1名がいじめられた理由は何かと答えるところで、(3)アがいじめられた理由であると回答している。一分の一で100%になり、ア以外は0%になる。ただ、複数回答なので一つとは限らないが、この場合は回答が1であったのでこういう数字になる。逆に、小1、小2なら60人、67人がいじめられたと回答しているため、分母が大きくなる。中学生はちょっとしたことぐらいで「いじめられたことがある」とは書かないのでこういう結果になる。発達段階に応じてこういう結果になる。</p> <p>教職員が見守ることについて、暴力を起こした結果だけを見るのではなく、そこにある背景がどういった原因要因になるのかアセスメントしていくことが重要になるので、教職員だけでなく、スクールソーシャルワーカー等専門家とも連携しながら進めているところである。また、教職員だけがいじめを</p>

	<p>発見するというのではなく、児童生徒のいじめ対応力を育てることによって、各々がいじめを見た時にいじめを止めるという力をつけていくことについても伝えている。</p> <p>「パソコンや携帯電話等に嫌なことを書かれる」が0%は実態とかけ離れているということについては、今回はいじめられた理由のなかから聞くので、中3の1名がその理由を書かなければ(3)は該当しなくなる。「いじめ」の理由ではなく、「普段に嫌なことを書かれた」という設問であればもっと多い。このアンケートは、「いじめ」と限定しているのでこのような回答になる。</p>
山本委員	<p>今の説明で理解できた。もう少しわかりやすくなるよう今後検討していただければと思う。</p>
浅田課長 西田委員	<p>検討する。</p>
	<p>いじめ認知件数とアンケート結果について。私は、いじめ認知件数は減ってきていると印象がある。ただアンケート結果を見ると、学校は、今もいじめられていると疑って、本人への聞き取りをしたり、生徒指導担当や管理職が集まり、本当はどうなのかと注視していると思うが、10頁(4)「人をいじめたことがある」は増えている。小5は昨年度は7名であったのに、今年は42人で、結果のズレを感じる。学校はどのようにアンケートの中身を振り分けているのか、教育委員会事務局も、生徒指導担当が提出したものをそのまま受け取るのではなく、もう一度学校現場に返して、精査をしたなかでのこの数字かどうかという確認をしているのか。問題行動のいじめは中学校5件、7月報告に出てきているが、これと整合性がとれているのか。</p> <p>小学校低学年が発達段階で、「いじめられたことがある」と言っているのだからということで済ませると、アンケートをしている意味がない。教育委員会事務局から管理職や生徒指導担当に結果の精査について指導してほしい。</p>
浅田課長	<p>小学校低学年は、些細な事案を「いじめ」としてアンケートに書いてくる傾向もある。そのなかに重要なこともあると思うので、簡単に低学年であるからということではなく、うったえの内容をしっかりと精査するように学校にも伝えていく。</p>
丹後教育長	<p>報告5「令和4年度全国学力・学習状況調査(4月19日)の結果について」教育研究所報告を求める。</p>
大野所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員	<p>小・中学校とも正答率が全国と同程度ということで、課題の解決に向けて教育委員会でも分析し、現場教員も研究を重ねたことが結果として表れているのかなと思った。学校訪問の時に、教室の様子、教員の様子、子どもたちの様子を見させてもらうが、学びに向かって集中していると感じる。今後と</p>

西田委員	<p>も研究で良い授業づくりをしていただきたい。保護者として望むのは、学習は授業で理解し、放課後は家庭や地域の方、友達との豊かな時間を過ごしてほしいと願う。</p> <p>小学6年生、割合の問題2の(2)を見ると、正答率が55.1%である。これを基礎基本と見るのか。(3)は選択問題であったのか、果汁の割合についての問題は、正答率が16.8%というのは、問題が悪かったのか。学力学習状況調査が始まった時から、丹波篠山市の子どもは割合が苦手である。過去によくあった無解答率は確かに改善したと思うが、苦手な部分は以前から変わらないと思うので、改善をしていただきたい。今後各学校が改善策を示した資料を作成し保護者に配布すると思うが、そのあたり徹底していただきたい。</p> <p>小学6年生理科2の(1)のメスシリンダーを問うものであるが、現場がこれを教えるのは1度しかない。メスシリンダーの名称を覚えるようにするには、メスシリンダーを使う際に、何度も説明するしか改善方法がない。学力学習状況調査が始まった時に同じ問題があり、正答率が低かった。今回も正答率が低かったということは、現場でくりかえしメスシリンダーを説明することが徹底されていないということである。改善策を示す資料のなかに今回の結果だけではなく、管理職やベテラン教員が把握している長期に渡っての視点も入れられるよう事務局から学校に指導していただきたい。</p> <p>以前小学校は特に学力が低かったが、よくここまで来たなと感じる。まだまだ伸びると思うので改善策に力を入れていただきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告6「令和4年度8月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課報告を求める。</p>
浅田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>校長会次第3(1)「学校勤務時間外における電話音声メッセージ導入について」、現時点での課題と、(2)「令和4年度末勸奨・定年退職者の取扱いについて」で、勸奨締め切り日について説明を求める。</p>
岸田次長	<p>電話音声メッセージの課題は、進捗状況として機材の納品が遅れていることである。また、緊急時の連絡について、児童生徒の生命に関わるような重大事態が発生した際の連絡先について、真夜中に校長に連絡があっても100%対応できるということではないので、保護者宛の通知に、警察や救急に連絡をするように記載、周知し、緊急時の対応とする。</p>
浅田課長	<p>勸奨退職の期限は、11月中旬である。</p>
丹後教育長	<p>ここで、議案書3頁、議案第8号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて」に戻る。</p>
糸川係長	<p>保育教育課に説明を求める。</p> <p>子どものための教育・保育給付交付金について説明をする。</p>

<p>垣内委員 糸川係長</p>	<p>この交付金は、こども園保育園等の教育・保育等にかかる費用を算定するための基準、地域ごとに国が決定する公定価格をもとに、市内の私立認定こども園、及び市外の保育園、こども園等へ給付するために交付される国、県の負担金である。今回返還金が生じた利用としては、0～2歳児が公定価格の高い対象児となるが、その園児の受け入れ人数が増加するという事実と、市内の園に対する交付金の見込み額が過大になっていたことが原因となっている。その交付金、つまり給付費に係る加算分には職員の処遇改善の加算があり、内容としては栄養士の配置や、リーダーの配置等があげられる。</p> <p>これは何か指摘があって過大だとわかったのか。</p> <p>実績報告をするなかで、年間費用を算出し再計算をしたところ返還金が生じた。</p>
<p>垣内委員 糸川係長</p>	<p>見込が過大であった理由をもう少し詳しい説明を求める。</p> <p>見込みが過大となっていた理由は、①公定価格の高い0～2歳児の受け入れ人数が、10月以降あまりなかったということ、②市内には私立2園があるが、そのうちの1園の加算分の計算方法が令和2年度と令和3年度について、変更になっておりその部分について二重に計上していたことである。</p>
<p>西田委員 糸川係長 西田委員</p>	<p>つまり、ヒューマンエラーであるということでしょうか。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>このような細かい部分については、事前説明をしてもらわないと我々もわからない部分である。</p>
<p>糸川係長 垣内委員</p>	<p>お詫びする。</p> <p>額も大きいのできちんとした説明ができるようにしていただきたい。</p>
<p>丹後教育長 全委員 丹後教育長</p>	<p>議案第8号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて」採決をする。異議はないか。</p> <p>異議なし。</p> <p>全員賛成で、議案第8号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて」原案どおり可決する。</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>報告7「令和4年度第1学期学校給食異物混入状況について」学校給食センター報告を求める。</p>
<p>石田所長</p>	<p>《議案書に基づき報告》</p>
<p>丹後教育長</p>	<p>報告8「第17回全国学校給食甲子園への応募について」学校給食センター報告を求める。</p>
<p>石田所長</p>	<p>《議案書に基づき報告》</p>
<p>垣内委員</p>	<p>84%地場産物で栄養価がとれるのは大変誇らしい。学校栄養士の尽力も多大</p>

山本委員	<p>であると思う。ぜひ頑張っていたきたい。</p> <p>地場産物 84%の栄養価の高い給食献立をつくっていただき感謝している。給食甲子園メニューの金額設定の規定はあるのか。</p>
石田所長	<p>金額設定は特になく、日常メニューでのエントリーとなる。地場産物と地場産物以外との差額は、市から特産物補助というかたちをとっており、給食費からの負担ではない。</p>
山本委員	<p>異物混入についても、暑い現場で沢山の給食を作るなかで3件ということで、安全第一に作っていただいていると感謝している。甲子園については応援している。</p>
西田委員	<p>教育委員が給食甲子園エントリーメニューを試食する機会を設けていただきたい。</p>
石田所長	<p>試食会のご案内も予定している。</p>
丹後教育長	<p>報告9「教育長報告」についてである。</p> <p>高校のオープンハイスクールの時期である。今、中高連携や高校の活性化ということが大きな課題となっているなかで、オープンハイスクールで進学先を決定する生徒も多いので、どういう状況かを見ておく必要があり、市内3高校のオープンハイスクールの見学に行った。</p> <p>高校生たちが模擬授業や挨拶で活躍しており、その姿は、中学生にとっては憧れで励みになるのではないかと感じた。高校には、今後も続くオープンハイスクールや説明会などをしっかり取り組んでいただき、受験者の増加につながればと期待している。</p> <p>23頁では校長会で話をした「ネガティブ・ケイパビリティ」を掲載している。こういう考え方もあるというひとつの考え方として校長から、教職員、児童生徒にも伝えてほしいと考えて紹介している。今回は、答えの出ない事態に耐える力というものである。この言葉自体は19世紀からあるが、時に焦点があたる。いろんな事案があり人生いつもポジティブに解決できることばかりではない。問題が生じたとき、3に記載しているポジティブ・ケイパビリティに焦点が当たりがちで、それも大事なことではある。しかし、なかなか答えが出ない事態にも耐えていると、解決したり、改善が見られることもあり、耐えることも能力の一つである。☆の箇所、「子どもたちに、すぐには解決できなくても、何とか持ちこたえていけること、それは実は能力の一つなんだよと言うことを教える必要があるのではないか。」は、著者の言葉であるが、私もそのように感じたので参考として紹介した。</p> <p>以上、教育長報告とする。</p>
丹後教育長	<p>ここで暫時休憩する。</p> <p>(休憩 15:50～15:55)</p>

丹後教育長	休憩前に引き続き会議を再開する。
丹後教育長	<p>以上で、本日予定していた審議は全て終了したところであるが、ここで丹波篠山市教育委員会会議規則第3条第2項の規定に基づき、追加の議案を提出する。</p> <p>(追加議案書配布)</p>
丹後教育長	<p>議案第9号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて(その2)」の審議に入る。</p> <p>本案件は、事務局及び教育機関の職員の任免、その他人事に関することから、丹波篠山市教育委員会会議規則第14条第1項第1号の規定に基づき、非公開とするのが適当と考えるが非公開としてよいか。</p>
全委員	異議なし。
丹後教育長	<p>全員「異議なし」であるので、議案第9号「令和4年度9月補正予算案を市長に提案することについて(その2)」は、非公開にて審議を行う。</p> <p>(この時点での傍聴者なし)</p> <p>【人事案件につき非公開】</p>
丹後教育長	<p>議案第9号の審議が終了したので、会議を公開する。</p> <p>【会議公開】</p>
丹後教育長	<p>以上で、本日の審議は全て終了する。</p> <p>これをもって、第5回定例教育委員会を終了する。</p>